

社会福祉法人

広報

静岡いのちの電話 43号

『風の電話』に想う

静岡いのちの電話 研修委員長 大久保 俊 夫

岩手県大槌町の丘の上に「風の電話」という電話ボックスがあります。「逢えなくなった人に想いを伝える、心で話す電話」*です。電話器はどこにも線がつながっていません。身近な人を亡くした方が訪れては、古い黒電話に向かい、思いや気持ちを語ります。震災以来3万人を超える方たちが訪れたそうです。

もう会えない人に「もしもし、〇〇さん・・・。」と呼びかけるのでしょうか。そして、伝えられなかったことばや、言えなかった「サヨナラ」、大切な人のいない未来に向かって生きていく決意などを語ります。電話の向こうに大切な人がいるのを感じ、その人が語ることばを聞くこともあるでしょう。

声を発し、ことばとして伝えられることもあるでしょうし、まだことばにならずに胸の中でうごめいている何かを感じながら、受話器を持ったまま黙って電話の向こうに耳を澄ますこともあるのだらうと思います。電話ボックスの中で過ごす時間は、いまはいない人とのつながり確かめる時間であると同時に、遺された人が自分と向かい合い、自分自身を確かめる時間でもあると思います。電話の向こうの人は、静かに耳を傾けて語られることばを聴き、ことば少なに想いを伝え返すだらうと想像します。

いのちの電話の相談員の務めも同じで、電話をかけてくださる方（かけ手）が自身の心残りを確かめ、自分と向き合いながら語ることばに心から耳を傾けることを目指しています。私たちは、風の電話の向こう側にいるような「聴き手」になれるのでしょうか。かけ手が、思うさま「思い」を述べて、自分から「じゃあね」と電話を終えることができるような、かけ手の思いをそのままそこにあるだけの重さとして、受け取ることができるような、そんな「聴き手」になることができるのでしょうか。

(* 佐々木格、2018.11.04、講演「心のインフラとしての『風の電話』」、静岡いのちの電話災害時自殺対策講演会 資料より)

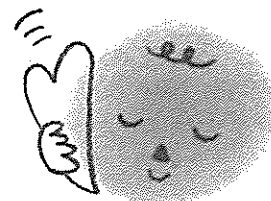
聴かせてください ひとりで悩まずに

相談電話 054-272-4343^{しみじみ}
 相談時間 年中無休 12:00~21:00

24時間、隣にいます。

心の痛み、話せる電話です。

自殺予防 いのちの電話
 ナヤミ ココロ
 0120-783-556
 毎月10日 8:00~翌日8:00
 (24時間・無料です)

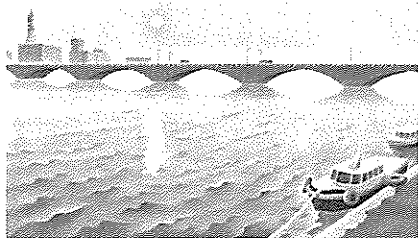


あなたがつらいとき、
 近くにいます。

第35回 いのちの電話相談員全国研修会

にいがた大会

いのちつながれ大河のように
～孤立社会といのちの電話～



第35回 いのちの電話相談員全国研修会 にいがた大会

10月18日(木)から3日間の日程で新潟市で開催されました。第1日目はホテルオークラ新潟を会場に基調講演、2・3日目は新潟ユニゾンプラザで20の分科会とシンポジウムが行われました。全国から600名の相談員が参加、静岡からは4名が出席しました。新潟満喫として「越後の徳僧良寛さん」の大ホールでの講義が生まれ、苦労の中で精一杯自由に生きた越後人を学びました。

基調講演

「この世に生まれ、生きて、生かされて」

作家・僧侶 家田 莊子氏

「三味線と生きる ～人生の絶望から救ってくれた母の一言～」

津軽三味線奏者
高橋史佳氏・竹育氏親子

作家として僧侶として有名な家田莊子さんは、家でも職場でもいつも完璧を求められ、追い詰められてきました。そんな中で、今が一番つらい。もう少し生きると楽になれるかと思いきやここまで生きてきました。人生において様々な出来事を前に自己決定してきた意思の強さが、視線・動作から覗えました。

津軽三味線の高橋史佳氏は新潟に生まれ、大学卒業後、大手企業に入りましたが、そこで「うつ」を発症してしまい、津軽三味線の師匠をしている母からの「三味線やってみたら！」の思いもなかった一言に救われ、現在は国内外でコンサートを精力的に行っています。新潟いのちの電話の「心の健康セミナー」でも演奏しているとのこと、その場で親子演奏をしてくださいました。その音の迫力に会場が沸きました。

どちらの講師も、一度は挫折や絶望を味わい、そこから抜け出して今は「自分が生きていて良いのだ」という確信が感じられました。同じ分科会に出席した方と「また今年お会いしましたね」とご挨拶できたのは、全国大会ならではの楽しい出会いでした。

(相談員 O. S)

分科会

「特別ではない LGBT」

講師 LGBTにいがた占いカウンセリング協会 高橋 佳生氏

L(レズビアン) G(ゲイ) B(バイセクシュアル) T(トランスジェンダー) について自身がトランスジェンダーである講師から詳細な説明がありました。小学生の頃から、体は女性、心は男性という性別の葛藤と向き合いながら過ごした実体験を交えての説明でした。

自分が LGBT だと気がついた年齢、周囲に話した年齢、いじめや暴力を受けた経験などを調査してみると、多くの問題点があることが分かってきました。日本の LGBT は人口の 7% です。

講師は、新潟日報のコラムに、LGBT について執筆したことで相談を受けるようになり、当事者団体「love 1 peace」を設立し、LGBT への理解を求めてメディアや学校関係、行政などに働きかけています。

こうした働きかけもあって、新潟市では 3 年前に「LGBT 電話相談口」が開設され、5 年がかりで渋谷区のようにパートナーシップ制度を導入する準備が進められています。

講師は、初めて友人に告白した時に「変に思わないよ。あなたはあなただから友達としては変わらない。」と言われ、ホッとしたといいます。

講義の後、分科会参加者はグループに分かれ「身内に告白されたら何というか」「友人に告白されたらどうか」を話し合いました。だいたいの方が「友人の場合は受け入れられるが、子どもや親の場合は難しい、が最終的には受け入れる」というものでした。現在、職場や家庭で告白できずに悩んでいる人は多く、人々の理解がもっと進んで、悩まなくて済むようになってほしいと願っています。

(相談員 H. M)

分科会

「精神障害者の孤立」

講師 神戸学院大学教授 阪田 憲二郎氏

講師は、ねむの木学園に20年在職し、現在は社会リハビリテーション学科教授で、神戸いのちの電話の研修にもたずさわっています。充実していた分科会でした。まず、対応が困難な電話の中に精神に障害がある方からの電話が含まれますが、置かれている状況の理解を深めることで、その方々となることができて、その孤独感を少しでもやわらげられたらと思いました。それから、グループに分かれて意見交換をしました。それぞれが抱えている問題や困りごとに答が出るわけではないのですが、相談員がみんな同じようなことに困ったり悩んだりしているのだと認識できてほっとしました。(研修担当 K. K)

分科会

「パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアログの視点から」 講師 福岡大学准教授 本山 智敬氏

私達の活動の基本である「傾聴」。分かっているようで十分には理解しがたいこの行為についてあらためて考えていこうという分科会でした。

後半のオープンダイアログの方に興味があってこの分科会を選んだのですが、パーソンセンタード・アプローチの立場から、ワークを交えて、聴くことの基本姿勢についてとても分かりやすく、心地よい声での楽しい講義でした。講義時間に入りきらないほどの資料が準備されていて、時間オーバーで補講になるほどでした。聞きたいと思っていた講義をうけることができ、今でもとても幸せです。(研修担当 K. K)

この全国研修会の会場となった新潟いのちの電話は、ほぼ3年にわたって準備を進めてこられたとのことで、ご当地らしい新潟満喫の分科会が特設されていましたので、参加しました。

良寛さんは江戸時代末期、越後出雲崎の名主の長男として生まれ、生前「徳僧」と評判された僧となりましたが、父親と末の弟を自死で失って、自身も病気がちでした。しかし、生涯定まった寺の住職にはならず、自らは「乞食」の修行を手段として過ごし、満73歳で直腸癌と推測される病で入寂されました。良寛さんが残した600余通の手紙の3分の2が、周囲の方へのお礼の手紙でした。

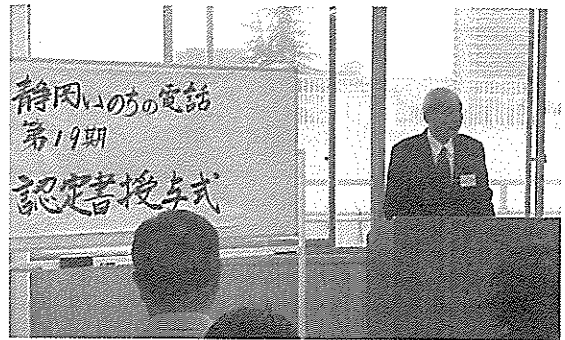
繰り返される信濃川の氾濫に苦しむ人々を精神的に救い、現代に充分通用する「戒語」を書き残しています。その一つ「甘える」ということについて、媚びてねだる事ではなく、他者が示してくれた好意や親切を遠慮なく受け入れる事で、お互いの自尊心を認め合った行為なのだといっています。

川幅一杯滔々と流れる信濃川。大きな氾濫に何回も見舞われ、苦しみながら自然と共生しようと努力を重ね、工夫を重ねてきた新潟の人達。今、自然の恵みを受け、日本有数の肥沃な土地と良質な米を得ています。日本海の荒れた天候、雪に閉ざされた冬の寒さを乗り越える精神の強さが県民性を育むのかと思いました。(相談員 M. K)



第19期電話相談員認定書授与式

9月29日(土) 第19期の養成講座受講生6人が静岡いのちの電話相談員として認定されました。中井理事長から「いのちの電話の新しい時代を作っていく厳になってください。」のことばがあり、研修担当者からは「優しい気持ちで聴くためには、自分の幸せを確保していることです」と励ましのことばがありました。



自殺予防キャンペーン

世界自殺予防デーの9月10日、静岡市は自殺予防への理解を呼びかける街頭キャンペーンをJR静岡駅で行いました。関係8団体58人が協力してチラシを手渡ししました。静岡いのちの電話からも5人が参加しました。

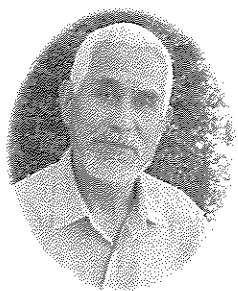


映画会「ゆずりは」(静岡市助成)



静岡いのちの電話映画会が、8月4日サールナートホールで行われました。160名参加。芸人コロケが俳優として初めて主演していました。妻に自死され笑顔を失った彼は、葬儀社の営業部長として遺族と冷静に対応している毎日でしたが、茶髪ピアスの若い新入社員に手を焼きながら、彼の内面に触れて柔らかな心を取り戻していくという映画でした。

災害時自殺予防講演会(静岡県助成)



11月4日(木) もくせい会館で佐々木格氏の講演「心のインフラとしての『風の電話』～生かされた者の生き方～」がありました。釜石に生まれ、釜石製鉄に勤め、早期退職して庭師になって海に見える高台に庭づくりを始めました。その庭に、死んだ兄と話をしたいと電話ボックスをたててい

る時、東日本大震災が起きたのです。今、この線の繋がっていない「風の電話」で、亡き人に話したいと訪れた人は3万人を超えています。子供たちのために「森の図書館」も建て、生かされた者に寄り添う活動を続けています。

市民公開講座(自主講座)

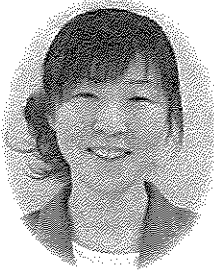


11月17日(土) 三島市民文化会館で「不登校や引きこもりなど生きづらさを抱えて生きる若者をどう支えるか」の講座がありました。講師の服部織江氏は、若者への援助的立場にいる人、親、学校、企業、病院などでカウンセラーとして講座を持つなどしています。問題解決に向かっては足りないもの

を修正しようというより、今何が在るか明確化していく方が解決には近づきます。今見えることに反応してやる、認めてやることの大切さが話されました。

参加者も発言できて活発な集まりになりました。

市民公開講演会 (静岡市助成)



12月2日(日) 静岡音楽観A O Iで「宮沢賢治文学から見る生きることの豊饒さ」の講演がありました。参加者120名。

講師の山下聖美氏は日本大学芸術学部文芸学科教授で宮沢賢治の研究者です。

宮沢賢治は実に不思議な感性の持ち主で、「ほんとう」を求め続け、死を描き続けた謎に満ちた天才であることが、明かされていきました。作品の中で「わけがわからない」という言葉が何度も出てきますが、答えを求めなくても、それぞれの「宮沢賢治の解釈」を持っていいのだと説明されました。

棚田便り

10月13日(土) 稲刈りを予定していましたが、行事と重なって人も少なく、天候不安定、実り具合ももう1週間置いた方がよいということで、田んぼの周辺整備をしました。稲刈りは次の週に清沢塾の方たちにご協力いただきました。



自殺予防講演会

(厚生労働省助成)



「人は、人を浴びて人になる」

日時 2019年1月27日(日) 14:00 ~ 16:00
会場 静岡市葵生涯学習センター「アイセル21」1階
講師 夏莉 郁子氏 (児童精神科医・やきつべの径診療所)

第21期静岡いのちの電話 相談員養成講座 受講生募集



かけがえのない命を尊重し、対話する電話相談ボランティアです。あなたも参加しませんか。この養成講座を受けて電話相談員として認定されると、「いのちの電話相談ボランティア」として活動することになります。毎日24時間、年中無休を目指しています。

【応募資格】 23歳からおおむね65歳(2019年3月31日現在)までの方で、性別、学歴、経験は問いません。「いのちの電話」の趣旨に賛同し、電話相談を始めとするさまざまな活動に参加し、原則として、1年半の研修の全日程に参加できる人、電話ボランティアとして無償奉仕できる人(交通費も自己負担)

【受付期間】 2018年12月3日(月)~2019年2月1日(金)

【研修期間】 2019年4月~2020年9月

【受講料】 5万円(初年度2万円・2年目1万円/宿泊研修経費は2回で2万円)

【応募方法】 事務局あてに募集要項をご請求ください。Tel 054-272-4344(平日12時~18時) Fax 054-255-1817 ホームページからも印刷可能です。[PDFファイル]

私が電話相談員養成講座に応募した時のこと

私がボランティアに参加したいと思ったのは、小学生の時です。

小学生の時に、阪神淡路大震災の映像を見て、昨日までの普通の日常が、自然災害により、ここまで人々の生活を一変させてしまうのか、恐怖を感じました。その時から、こんな悲しい辛い思いをしている人の助けをしたい、将来誰かの役に立てるような事をしたいと思いました。

大学院へ進んだころは、将来は専攻している心理学を生かす仕事をするのが私の夢になっていました。しかし、そのころ、リーマンショックの影響もあり、行きたい会社の面接で落とされたり、内定が出なかったりして、地元である静岡県内で就職することも考えましたが、上手くいきませんでした。このまま大学院で研究を続けて博士課程に進学するか思い迷っていましたが、ふと、仕事ではなくボランティアで心理学を生かせる方法があるかもしれない、と思いました。そんな時、たまたまインターネットで静岡いのちの電話相談員の募集を見つけたので、さっそく応募しました。小学生の時に思ったこととは違うかもしれませんが、少なからず、あの時に感じた事は、今の私に影響したのかなと思っています。(相談員 S.H)

編集後記

ボランティアに奔走するOさんの姿が報道された時、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の詩が思い浮かびました。「憂メラレモセズ、苦ニモサレズ、ソウイウモノニ私ハナリタイ」。潔い生き方に憧れた中学時代、日々、雑念に翻弄されている自分がOさんの向こうに見えました。(相談員 H.K)

発行
社会福祉法人 静岡いのちの電話事務局
☎ 420-8691
日本郵便(静岡中央郵便局 私書箱 200号)
TEL:054-272-4344
FAX:054-255-1817
郵便振替口座番号 00880-0-33857
URL <http://www.shizuoka-inochi.jp>